

毛呂山中だより

第 6 号

令和6年8月26日

学校教育目標 **「夢をもち世界にはばたく毛呂山のこども
自ら学び 共感し 行動できる生徒」**

〒350-0465 人間郡毛呂山町岩井西4-12-1 TEL049-294-0019

＜努力の大切さ ～始業式校長式辞より～＞ 校長 上原 英樹

1学期の終業式でもパリオリンピックの事についてふれましたが、皆さんはどのような視点から今回のオリンピックに注目し、楽しんだり、感動したり、学ぶことができたでしょうか？私は様々な種目の日本人選手の活躍にテレビの前で一喜一憂し、メダルが獲得できれば深夜にも関わらず大声で喜びを爆発し、家族から「うるさい」と怒られたり、日本人選手が敗れば、自分ごとのようにくやしくてなかなか寝付けない日もありました。特に男子バスケットボールのフランス戦の逆転負けは、モヤモヤした気持ちがしばらくの間続いてしまいましたが、河村勇輝選手の試合後のインタビューを見て、そのグッドルーザーぶりに感心すると共に自分の至らなさに反省してしまいました。日本人選手を応援せずにはいられない自分は「やっぱり日本人なんだな」と強く実感させられました。そんなパリオリンピックで今回私が一番学んだことは「努力の大切さ」です。柔道男子81Kg 級を2連覇した金メダリストの永瀬貴規さんは高校時代の恩師から「凡人のヒーロー」と呼ばれ、「持っている才能なら、上回る子はたくさん見てきた。永瀬は素直さと勤勉さで強くなった。努力次第で夢をつかめると証明した」と語っています。永瀬さんは体調が悪くても稽古は休まない。社会人になった今でも、周囲が止めるほど練習をしているそうです。また、卓球女子シングルスで銅メダルを獲得した早田ひなさんを4歳から指導した卓球教室のコーチも「ずばぬけて卓球が上手だった印象はなく、違ったのは卓球を学ぶ姿勢だった。コツコツと積み重ねることを惜しまない、努力を継続する才能があった。」と語っています。早田さんは卓球教室に掲げられている「練習は不可能を可能にする」を合言葉に日々厳しい練習に打ち込んで高みを目指してきたそうです。ケガを乗り越えて個人戦・団体戦を戦い、メダルを獲得した精神力も日々プレッシャーと戦いながら打ち込んだ練習量が自信となったのかもしれませんが、さらに、柔道男子66Kg 級を2連覇した金メダリストの阿部一二三さんが表彰式後のインタビューにおいて「僕は**努力は天才を超える**という言葉座右の銘でやらせてもらっている。絶対に無駄な努力ってないと思いますし、もし何かが叶わなかったとしても、その努力してきたことってというのは絶対に無駄にはなっていないと思うので、やり続けることってというのは大切だと思うので、努力はしてほしいというか、努力は裏切らないと思っています。」と述べていました。結果や行動で実際に表現しているご本人が語られる言葉には非常に説得力があり、ストレートに心に響いてきました。阿部さんのような努力を毎日積み重ねることは難しいかもしれませんが、私たちも自分なりに可能な努力を夢や目標の達成に向かって継続していくことを頑張っていきましょう。2学期の皆さんの活躍を期待しています。（式辞抜粋）